



発行 明治大学マスコミクラブ
 〒101-8301
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 明治大学広報課内 MMC事務局
 電話 03-3296-4082
 FAX 03-3296-4087
 e-mail : mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp
 URL : www.meiji-mmc.com
 発行人 本村 隆
 編集 馬淵 豊・梶野 雅秀

母校を世界に誇れる大学へ

明治大学理事長 日高憲三



明治大学マスコミクラブ会員の皆様には、日ごろから明治大学へのご支援を賜わり、心より御礼申し上げます。

明治大学は、今年4月、中野キャンパスと総合数理学部を開設という大きな節目を迎えました。中野キャンパスは、「国際化、先端研究、社会連携の拠点」と位置づけ、世界から注目される教育・研究拠点となり、ひいては明治大学の牽引役となることを期待しています。皆様も、ぜひとも中野キャンパスの活動にご注目ください。ますますお願いいたします。

ところで、今日、少子化、情報化、グローバル化の波が押し寄せる中で、大学は、これまで以上に教育と研究の質が問われています。大学の機能も教育・研究活動に加えて、イノベーションの創出、地域社会の拠点となる役割を求められ、産業界、行政、地域コミュニティと連携を強めていかななくてはなりません。大学経営もこれまでの価値観に捉われず、新

たな事業、新たな挑戦が必要。な時代を迎えていることを強く感じています。

その一方で、大学は教育・研究を通じて社会貢献、つまり社会に有為な人材の育成が最大の使命です。大学の評価基準の二つに「卒業生がどれだけ社会で貢献しているか」が挙げられますが、今日の明治大学の社会的評価は、卒業生一人ひとりが積み上げてきた評価であり、私たちは、先輩方に負けない優秀な人材を社会に輩出するよう、教育・研究活動の質を高めていかななくてはなりません。

私は、明治大学を媒介とした組織やヒューマンネットワークをさらに強めていくことが、本学の発展に不可欠だと思っています。そのためには、校友会、父母会、ゼミ・サークルのOB・OG会といった組織に加えて、職域や地域を結ぶ組織、ネットワークの活性化が急務です。明治大学マスコミクラブは、マスコミを媒介とした懇親の場であり、会員の皆様には本学の広報戦略活動の一翼を担っていただいています。また、就職支援等の行事を通じて学生支援活動、若い卒業生の育成といった、職場や仕事を通じた絆を紡いでいただいでい

ると認識しています。このような活動を通じて、皆様と共に若い力を社会に有為な人材に育て、母校を世界に誇れる大学へと発展させることを願っています。

結びに、今後とも明治大学へのご支援、ご協力を賜わりますとともに、明治大学マスコミクラブのますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

謙虚な心と負けじ魂があれば一流に勝てる

時事通信社代表取締役社長 西澤豊



メディアで40年近く仕事をしていたながら、明治大学マスコミクラブ(MMC)の存在を知らなかった。申し訳ない、と言うしかなかった。MMCニュースを編集されている馬淵さんから「何か書いてほしい」と頼まれ、一も二もなく応諾した。

何はともかく、まずは簡単な経歴から始める。1974年、政経学部政治学科を出て時事通信に入社。世界週報編集部を振り出しに、政治部、横浜、政治部、ソウル特派員、政治部次長、長野支局長、世界週報編集長、横浜総局長、経理局長、取締役(経理・システム担当1年、総務・労務・法務担当3年)を経て、昨年6月、社長に就任した。

記者時代は政治部が主舞

治大学も時事通信も第一志望ではなかった。だから、どこかに屈折した感情があった。ただ、これをバネに負けじ魂を学んだのが明治の4年間だったように思う。ジョブズ語録でいえば「Stay hungry」がある。

子供の頃、西鉄黄金時代を築いた後、最下位だった大洋をいきなり優勝させた三原脩という名監督がいた。「三原マジック」と騒がれ、「超」を付けて二流に勝てることを教えてくれた。私は「超二流」という言葉が好きだった。

日経産業新聞の「大学解剖・明治大学」という連載で、福宮賢二学長が「(明大生には)負け知らずの人にはない、人の痛みを理解する姿勢が底流にある」と話し、これが企業の評価が高い理由の一つと指摘していた。その通りだろう。

いつまでも「早慶に次ぐ2番手」でいいとは思わない。ただ、負け犬にもならないが、天狗にもならない。この気持ちで明治の良さを。謙虚な心と負けじ魂があれば一流に勝てる。西澤豊(74年・政経)



2013年時事通信社新年互礼会にて

会員寄稿

「キンタオセ」→「アズミックス」 継がれるジャーナリズム精神

中谷範行 毎日新聞社OB、自民党広報本部
(1963年法卒)



「アベノミクス」を引っさげて
経済再生で「日本を取り戻す」の安倍晋三総理。7年前の
ような投げ出し内閣の心配が
ないわけではないが、その直前
のハードルがねじれ国会を解
消の参院選であることは間違
いない。

およそ半世紀前、日米安全
保障条約に反対して渋谷南
平台の岸信介総理邸を取り
巻くデモ隊の「アンボンタイ、
キシラオセ」のシュプレヒコー
ルを邸内で祭り囃しのごとく
に口ずさんで楽しんでいたとい
う幼い時の安倍さんだ。今度
は果たして祖父からの「闘う
政治家」のDNAが再生したの
だろうか。

開の4年間で当時、公安調査
庁次長の関之氏（後に日本大
学法学部名誉教授）が館長
だった諏訪郷友会学生寮・長
善館にほとんど帰館せず大学
の部室での寝泊りが続いた。
関館長は「学生としてあるま
じき行動だ」と怒っていたとも
耳にしたが40数人いた館生の
相当数が学生運動に関わって
いて、別に呼び出されて警告
を受けることもなかった。

「早く外に出ろ」と怒鳴られな
がら機動隊が両側を固めた
階段を足早に下りた。玄関前
では一人ひとりが両側からがっ
ちりと抱えられて連行される
学生にシャッターを切っていた。
逮捕された41人の中には東大
教養学部の江田五月委員長
Ⅱ前参院議長Ⅱがいて黙秘権
を行使し、明治でも学友会委
員長らは麹町署から出てくる
のに2週間かかった。
（写真Ⅱ当日のデモ行動は毎
日新聞にも載り、左下のカメ
ラ取材のスーツ姿で髪が乱れ
ているのが私）

昨年暮の総選挙に勝ち3年
半ぶりに与党となった自民党
は第2次安倍内閣が民主党
政権の「負の遺産」払拭に追わ
れながら、経済、暮らし、教
育、外交・安保、そして憲法
改正と山積する課題に取り
組んでいるものの国民の実感
にはほど遠い。
自民党の機関紙発行に携
わっている身としてもわが国の
政治とはこのように不安定で
脆いものであるのかと思う。
「決める政治」しかない。
今年、自民党本部には学生
ら9人が職員採用され、将来



MMC新年総会・懇親会
が1月25日、大学会館にて来
賓含め総勢81名の参加者を
得て開催されました。
総会では、従来の規約の大
幅な改正及び役員・組織体
制の変更が活動報告等とも
に承認されました。これによ
り人数を絞り込んだ理事体
制が確立され、今年目標の一
つである、「より会員に沿った
会の運営」を目指すことにな
ります。
総会の後に行われた懇親会
は大学から日高理事長はじめ
向殿校友会会長等多数が出
席され、また親交の深い他の
親睦団体3団体からも出席
をいただき賑やかにスタート。
特別ゲストに昨年のロンドンパ
ラリンピック水泳100メートル
ル金メダリストの秋山里奈選
手（大学院法学研修科博士前

に政治家を目指す者も少な
くない。東京都議選（定数
127）の当選者で明治は
たったの4人（現2、元1）。
それも全員が大学院修了

だったが。
MMCはじめ若い層がもっと
政治家となって「国づくり」に
取り組む、そういう機会の方
を手助けしたい。

期課程2年・当時）を招いて
インタビュー。感動秘話が映像
とともに紹介されると、当時
の感動があらためて会場全体
を包み、来場者の共感を誘い
ました。最後は恒例となった
明大節と校歌斉唱で無事終
了。大学関係、親睦団体、及び
出席された会員の皆様方、有
難うございました。
梶野雅秀（1975年・法）



2013年新年総会・懇親会開催 役員・組織変更で本村体制二期目が始動

リレーインタビュー 北から南から

親子4代、北に煌めく明大新聞魂 十勝毎日新聞社取締役社長 林浩史 (1990年 文学部卒)



妻子と会社年賀会/2013年1月10日北海道ホテル

北海道・十勝平野の中央に位置する帯広市に十勝毎日新聞社(愛称:勝毎)がある。大正8年創刊、今年で94年目。創業者は曾祖父、林豊洲(ほうしゅう)。大分県臼杵市から移住した。明治大学との関わりは2代社長の故・克己(豊洲の長男)から始まる。昭和10年に拓殖大学卒業後、明治大学新聞高等研究科に入学したが、間もなく父の急逝により弱冠24歳で社業を引き継いだ。心残りがあったと思う。

3代社長の故・正巳(豊洲の次男)は昭和11年、明大法学部から新聞高等研究科を卒業した。「在学中は週刊の駿台新報(学内新聞)の編集に明け暮れし、勉強どころではなかった」(90年社史)。卒業後「駿台新報」の指導を受けた中外商業新報(現・日本経済新聞)に入社したのは自然の成り行きだったようだ。克己・正巳兄弟は戦後の新聞統合の苦難を乗り越えて勝毎を復刊させた後、地方紙としての経営基盤を確固なものに築き上げた。明大の建学の精神である「権利自由と独立自治」を地でいく生き様だったように思う。

母校を愛した正巳は明大校友会の初代帯広支部長。本部役員を永く務めた。昭和30年代に誘致し、今に引き継がれたマンドリン倶楽部の演奏会は、母校のPR貢献が極めて大きい。正巳の長男・昌弘も明大卒(昭和42年・文学部)。時事通信社東京本社、札幌支社を経て勝毎に入社。元常務取締役、現在顧問。



バドミントン部65周年/2012年7月8日紫紺館

4代社長で私の父・光繁は昭和39年、政経学部政治学科の卒業。毎日新聞社を経験した。ある日、私に手渡した大学2年時の父が克己にあてた手紙は印象に残る。当時道内最大手紙に大きく部数で差を付けられる中、市場調査を依頼する内容だった。旧態依然とした新聞社を変えたい思いが芽生えていた。昭和48年勝毎入社、様々な改革が奏功し「地域密着のハイパーローカル紙」として社業を軌道に乗せた。一方でケーブルTV、FMラジオに進出、全国紙の受託印刷などメディアの多角化、またホテル、レストラン、ガーデンリゾートなどを経営、観光を二本目の柱に育てた。現在、銀座コリドー街にはレストラン「十勝屋」を営業している。

5代目社長が私だ。平成21年12月に就任した。文学部史に「世界文化遺産登録が正式に決まりました富士山です。昨日までの雨から一転、この日を祝福するかのようには晴れ渡りました。山頂は、ずっと雲がかかって見えない状態だったので、つい先程登録が決まりました。日本一の山・富士山が『世界の富士山』になりました」

6月22日午後5時半。全国ニュースの冒頭、ヘリコプターから中継で伝えた内容です。カンボジアで開かれた世界遺産委員会で、午後4時半から富士山の世界文化遺産登録について審議が行われていました。「中継の時間には決まらないかも」と言われつつ、富士山の上空へ。すると午後5時



一緒にニュースを担当している石田和外アナウンサー



弟、父たちの刻んだ歴史を踏まえ、明大で培った「質実剛健」を心の糧にデジタル時代の新たなメディアに挑戦し、地域発展に努めたいと思う。

28分、静岡朝日テレビの本社からこの一報。「富士山、世界文化遺産登録決定!!」
「えー!!!」本番2分前の連絡に、もうてんやわんやです。どうする?何を伝える??
ふと目の前の富士山を見ると、先程までモクモクとかかっていた雲がとれ、山頂までほぼ全景を見られるようになっていました。「これだ!」こうして出てきたのが冒頭の言葉です。

その後再び1分間の中継リポートをして、お仕事終了。この歴史的瞬間に、見事な富士山の姿を全国に伝えることができました。しびれました。アナウンサー冥利に尽きます。

静岡朝日テレビでアナウンサーとして働き始めて、7年目になります。入社1ヶ月から現在まで夕方の県内ニュースを担当。静岡の今を取材し、自分の言葉で伝えられる仕事です。

新東名開通の瞬間はへりから実況を担当。浜松市の山間部で大規模な地滑りが発生した時は、現場からリアルタイムの状況を伝えました。

記者業務も行います。福島原発事故のセシウム問題で静岡茶が大打撃を受けた年、ある茶農家の復活にかけられる思いを取材しました。何の非もないのに苦しめられた茶農家。どうしてこんな事態になってしまったのかを知ってもらおう。そして、茶農家が地道な努力をしていることを伝える。地元の報道機関としての使命を果たすべく、取材に打ち込みました。

生まれ育った東京から、静岡にやってきました。6年。当時は県知事の名前すら知らなかったことを思えば、やっと静岡を少し語れるようになりました。

ただ、静岡には海も山も湖も川もあり、美味しいものも沢山ある。天気もコロコロ変わる。まだまだ知るべきこと、伝えるべきことはたくさんあるんです。

静岡朝日テレビアナウンサー 橋本ありす

静岡朝日テレビアナウンサー 橋本ありす
(2007年 政経学部卒)

2013MMC就職セミナー開催

恒例MMC就職セミナーが6月12、15、17の3日間を通じてリバイバルホールで開催されました。3日間の延べ入場者数は340名。

一日目：放送・新聞セミナー

セミナー常連NTVドラマプロデューサー加藤正俊氏はドラマ作りの楽しさ、達成感を強調。初登場のNHKディレクターの渡部玲氏は音楽番組制作の現場感、そして今も続く「名曲アルバム」の制作現場秘話を伝えてくれました。

二日目：広告・出版セミナー

大阪から駆けつけてくれた



博報堂・佐久間氏は、PC映像を駆使して自己分析などこれから直面する就活の基本的指針をプレゼンしてくださいました。出版ではダイヤモンド社の土江英明氏が出版業界を越

武内裕杯観桜コンペ開催



三月二十九日、満開

昨年は四月二日開催でしたが開花の気配さえない状態でしたが今年はどうでしょう。満

開でした。東京ではすでに散り始めてました。

相模の桜を見たのは何年ぶりでしょうか。しかも快晴微風、これ以上望むべくもないコンペ日和でした。

宇都さん悲願の初優勝

このところ常連だった方の欠場が目立つ反面、新しい方の参加も多くなっています。それを反映して今回は久々五組での開催となりました。幹事としてはうれしいうれしです。菊部彰夫さん、塩見悟さんが今回初参加です。その中で最近の常連、宇都大勝さんが見事初優勝を果たし、武内裕杯を



初優勝の宇都大勝さん

秋季大会

今回は伊藤園レディースでおなじみの千葉県のグレートアイランド倶楽部で開催予定です。お楽しみに。会員登録されていない方はご連絡ください。ご案内申し上げます。
幹事・楡郁太郎(64年・商)
(申込連絡先 090-2247-1121)

第10回MMCサロン開催

記念すべき10回目のMMCサロンが4月19日、おなじみ神保町「アミ」にて過去最高の32名の出席者を得て賑やかに開催されました。若手OBはじめマスコミ・一般大手企業からシナリオライター、社会保険

労務士に至るまで多彩な顔ぶれが揃い、店内は熱気あふれる情報交換広場と化しました。また一方で、遠く大阪、浜松から駆け付けてくださったOBの方たちのMMC仲間とのゆつたりとくつろぐ姿が印象的でした。



会員トピックス

澤田理事がロックバンド

3月17日、MMC理事の澤田慎介(83年・政経)さん所属のロックバンド「Rossie Wood」のファーストライブが神楽坂で行われました。ハードロックからバラード、J-POPまで、なかなか聴き応えのある演奏でした。
MMCの会計担当で、懇親会やフォーラムでいつも受付を

第2回まち歩き開催

5月11日、参加者13名。今回はいわゆる東京の下町を散策するコース。小雨にけむる錦糸町駅前、明大ゆかりの記念碑「伊藤左千夫旧宅跡」から始まり一路北へ。地域産業として有名な「江戸切子館」、旧安田蓄財銀行の歴史的建物や大横川親水公園を散策したあと最後は東京スカイツリーの「東京ソラマチ」へ。歴史的建造物ならぬ最新スポット



第2回のまち歩きは、東京スカイツリー「東京ソラマチ」へ

■会員の皆様へお願い

MMCホームページの会員紹介への投入をお願いします。MMCでは現在HPに会員紹介の頁を載せています。広く会員間の情報交換と会員PRを目的にご利用していただくもので、今のところまだ数名の会員しか投入されていません。強制ではありませんが、希望者は是非、投入をお願いします。投入方法はHPトップページ左側にある「会員紹介投入の方法」をクリックすると説明画像が開きます。

編集後記

○志願者3年連続日本一。11万人超の明治、明治は入試方式への姿勢の差が人気。
○人事往来、大学広報部・大野部長異動。
○日高理事長寄稿、MMC連携に感謝。(馬淵豊)